

【研究論文】 就職活動用日本語自己 PR 文の内容分析

—外国人留学生と日本人学生の比較から—

土屋 陽子

日本大学大学院総合社会情報研究科修士

Content analysis of Japanese self-promotion statements for job hunting

—A comparison of international and Japanese students' statements—

TSUCHIYA Yoko

M.A., Graduate School of Social and Cultural Studies, Nihon University

This study aimed to examine the characteristics of Japanese self-promotion statements written by international and Japanese students for job hunting. The research dataset comprised self-promotion statements from four groups of students: international vocational school students, Japanese vocational school students, Japanese university students, and Japanese university students whose statements were published in job-hunting books. Regarding vocabulary, “the characteristic words” in the self-promotion sentences written by the students in each group were extracted by KH Coder3. Terms including “Japan,” “doing my best,” and “responsibility” were typically used by international vocational school students. Japanese vocational school students frequently used expressions such as “like,” “Korean,” and “certification exam,” whereas Japanese university students used “high school,” “club activities,” and “positivity.” The words used by Japanese university students whose statements were published in job-hunting books included “university,” “effort,” and “achievement.” It was found that 11% of international students did not describe their competencies, and 32% described their strengths without anecdotes. As a result, compared to the three Japanese groups, their scores were 27 points lower for concreteness and 14 points lower for objectivity.

1. はじめに

少子化が進む日本では、より多くの外国人留学生の国内定着が期待されている。日本政府は外国人留学生の国内就職率を「現状の3割から5割に向上させる」(首相官邸, 2016, p.207)ことを目指している。しかし、外国人留学生へのキャリア支援等はまだまだ十分とは言えず、寅丸他(2018, p.241)は「留学生の就職問題が着目されるようになってから間もなく、その対応策が十分に練られていないことや、日本の就職システムの特異性、言語教育者側の就職システムに関する知識不足」がその原因だと指摘している。

留学生が就職活動の中で頭を悩ませるものの1つに履歴書やエントリーシートの中の自己PR文があ

る。自己PR文は自由記述で300字程度あるいはそれ以上の記述が求められ、書類審査が事実上、一次審査となっている日本では、就職活動の書類がうまく書けなければ面接試験へ進むことができないからである。

そこで、本研究は外国人留学生のキャリア教育・キャリア支援のための基礎資料として役立てられることを目指し、外国人留学生と日本人学生、それぞれの就職活動用日本語自己PR文の特徴を捉えることを目的として行った。

2. 自己PR文に求められるもの

自己PR文の書き方を指南する就職活動マニュアル

ル本は1990年代から毎年発刊されている。外国人留学生向けマニュアル本A（以下、Aとする）と一般新卒者向けマニュアル本B, C, D（以下、同様にB, C, Dとする）における、自己PR文の書き方に関する指南内容の要旨を表1に整理した。

表1 就職活動マニュアル本¹で示されている自己PR文の書き方のポイント

| 就職活動マニュアル本 | 要旨 |
|-----------------------------------|--|
| 【留学生向け】 A：日本学生支援機構（2023, p.50） | 自己PRを書くためには自己分析をし、アピールするポイントを1つに絞って内容を充実させるようにする。自分の特性を証明するために具体的なエピソードで説明し、どのように仕事に活かせるかを書くことが重要である。 |
| B：坂本（2021, pp.248-262） | 面接官は、応募者が「仕事を頑張る行動特性を持っているか」を知りたい。説得力のある自己PR文にするには、具体例があること、数字による説明があること、客観的な評価（成果）が示されていることが重要である。 |
| C：成美堂出版編集部（2021, pp.144-157） | 売りのポイントは何かを書き出し、その項目を裏付けるようなエピソードや、忘れられない事件、思い出など過去の出来事をピックアップする。その際、友人、恩師、家族、親戚、近所の人など第三者の目線・評価を取り入れるとよい。 |
| D：キャリアデザインプロジェクト（2022, pp.16-31） | パーソナリティ、コンピテンシー、モチベーションをアピールする。特に、自分軸ではなく、企業から求められているコンピテンシーは何かを理解し、自分がそれを発揮したエピソードを交えながら伝えることが大切である。 |

これらをまとめると、自己PR文を書く際に重視される共通の観点は、①具体性、②客観性、③コンピテンシーであると考えられる。

①具体性については、Aでは「具体的なエピソード」と明示されており、B, Cでは具体性を備えるための方法が、Dではコンピテンシーとの関係で具体例を述べることの重要性が示されている。②客観性については、Bでは「客観的な評価（成果）」、Cでは「第三者の目線・評価」と述べられている。AやDには直接的な語はないが、Aは「自分の特性を証明するために」とあり、独りよがりのアピールでなく、

他の人が見てもわかる方法でアピールすることの重要性、Dは自分の物差しではなく企業から求められているコンピテンシーをアピールすることの重要性が述べられており、客観性につながるものと判断できる。また、③コンピテンシーについて、Dではその重要性が明示されているほか、Aでは「自分の特性」、Bでは「仕事を頑張る行動特性」、Cでは「売りのポイント」とあり、コンピテンシーと関連することが述べられていると考えられる。

自己PR文の評価観点を示した論考として、金（2021）がある。金は中国人留学生の書いたエントリーシートの場合要因を分析するために内容面での評価基準を検討した。その結果、先行研究と就職支援サイトで示された観点から、「具体性がある」「根拠が妥当」の2つを挙げている（p.78）。「根拠が妥当」というのは「客観性がある」と言い換えられると考える。また、牧野（2010）は2010年までに発刊された就職活動マニュアル本94タイトルに記載された作業課題の変容を分析し、「他己分析」の割合の増加から、「客観化」重視の傾向があることを指摘した。

以上から、本研究でも、①具体性、②客観性、③コンピテンシーを、自己PR文を比較する際の観点として用いることにした。

コンピテンシーとは、「ある職務または状況に対し、基準に照らして効果的、あるいは卓越した業績を生む原因として関わっている個人の根源的特性」（スペンサー・スペンサー、2001, p.14）である。図1はコンピテンシーの能力観を説明する「冰山モデル」と呼ばれるモデルである。それは「動因/特性→行動→成果という原因・結果フローのモデル」（p.15）でもあり、目に見える行動、氷山の表層にあるスキルや知識、その根源にある自己イメージ、特性、動因を一体のものであると捉えている。スペンサー・スペンサーは200以上の職務において、その職務での「卓越したパーフォーマー」から成功しやすい行動の特徴を探ることにより、コンピテンシーのモデル化を行い、20の代表的コンピテンシー²を抽出して6つのクラスター（群）に分類した（表2）。このようなコンピテンシーモデルは今日、企業ごとに作成され、人事考課などの際に使用されている。

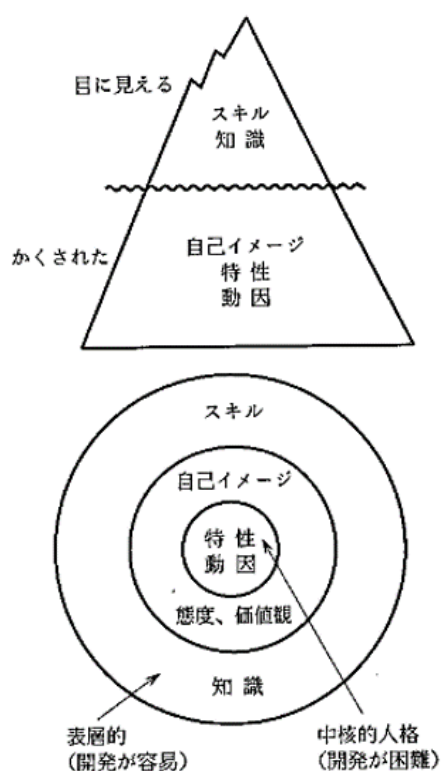


図1 中核と表層のコンピテンシー
出所: スペンサー・スペンサー (2001, p.4)

表2 コンピテンシーモデル (スペンサー・スペンサー (2001, pp.31-115) をもとに筆者作成)

| コンピテンシー群 | コンピテンシー |
|----------------|---|
| 達成とアクション | 達成重視 (p.31), 秩序・品質・正確性への関心 (p.36), イニシアティブ (p.39), 情報探求 (p.43) |
| 支援と人的サービス | 対人関係理解 (p.46), 顧客サービス重視 (p.51) |
| インパクトと影響力 | インパクトと影響力 (p.55), 組織の理解 (p.60), 関係の構築 (p.64) |
| マネジメント・コンピテンシー | ほかの人たちの開発 (p.68), 指揮命令 (p.72), チームワークと協調 (p.77), チーム・リーダーシップ (p.81) |
| 認知コンピテンシー | 分析的志向 (p.87), 概念的思考 (p.90), 技術的・専門的マネジメント・専門能力 (p.94) |
| 個人の効果性 | セルフ・コントロール (p.100), 自己確信 (p.103), 柔軟性 (p.108), 組織へのコミットメント (p.111) |

3. 先行研究

外国人留学生と日本人学生の自己 PR 文の比較をした研究は管見の限りないが、日本語を学習しているタイ人大学生の自己 PR 文と就職活動マニュアル本に掲載された日本人大学生の実例を比較分析したものに香山 (2015) がある。香山はタイ人の自己 PR 文のみに現れた語として、「日本 (語・人) / 高校 / 自信 / 時間 / 責任 (感) / 留学 / タイ語 / 我慢」等、日本人大学生の自己 PR 文にのみ現れた語として「達成 / 行動 / 相手 / 成長 / 結果 / 企業 / 目標 / ゼミ / 友人」等があることを明らかにした (p.62)。

さらに、香山 (2015) は自己 PR のアピール対象を「性格」「主観的能力」「客観的能力」「考え方」「行動」「複合」「なし」の7つに分類し、タイ人大学生と日本人学生を比較したのに対し、梅田他 (2017) は外国人留学生をコンピテンシーの枠組みで模擬面接することによって社会人基礎力とコンピテンシーの関係性を明らかにした。

例えば、「明るく接客した」を「性格」「能力」「行動」等に分類する方法では内容そのものに焦点が当てられないが、表2のコンピテンシーモデルなら「支援と人的サービス」に分類でき、内容に焦点が当てられると考える。本研究もコンピテンシーモデルの枠組みで自己 PR の対象を捉えることにする。

また、古本 (2013) は、文章の構成要素に着目して、就職活動マニュアル本に掲載されている日本人大学生の「大学で力を入れたことは何か」という問いに対する回答として書かれた自己 PR 文をジャンル分析によって分類した。

ジャンル分析とは、学術分野や専門領域のさまざまなジャンルのライティングにおいて、「モデルとなるテキストのジャンルの特徴を分析」(後藤, 2010, p.179) する方法である。

古本は談話の大きいまとまりのムーブ(「開始」「展開」「結び」の3項目)、その下位分類のステップ(「見出し」など12項目)に分け、文がその文章の中で果たす機能の分析を行った。その結果、「エントリーシートの自己 PR 文として書かれた『大学で力を入れたこと』の文章にはパターンが認められ、エントリーシートの文章の一つとして、ジャンルを構成していると推定できる」(p.81) ことを明らかにした。

4. 研究目的

本研究は外国人留学生と日本人学生の就職活動用日本語自己PR文の特徴を明らかにすることを目的とし、①それぞれの自己PR文で使用されている語彙の特徴を明らかにすること、②それぞれのアピール対象（話題とコンピテンシー）の特徴を明らかにすること、③それぞれの文章の構成要素の特徴を明らかにすること、の3点を研究課題として設定した。

5. 研究方法

研究課題①についてはKH Coder³により頻出語や特徴語を解析し、外国人留学生と日本人学生の自己PR文で使用される語彙の特徴を捉えた。研究課題②の話題については、「部・サークル活動」や「アルバイト」など10に分類し、外国人留学生と日本人学生の自己PR文の話題の特徴を捉えた。また、コンピテンシーについては、表2のほか企業等のコンピテンシーモデル30以上から本研究で使いやすいと考えられるコンピテンシーモデル⁴を選び、それを参考にして、研究課題①で得られた頻出語リストと照らし合わせながら分類基準を作成した。既成のモデルは社会人を想定しているが本研究の対象は実務経験のない学生だからである。詳細は6.2.2で述べる。課題③の文章の構成要素については、古本(2013, p.81)のジャンル分析の分類基準の文言を一部変えた⁵分類基準を作成し、それをを用いて分類することにより特徴を捉えた。古本は「大学で力を入れたこと」というテーマで書かれた実例を用いて調査したが、本研究では自己PR文に特定のテーマを設定していないためである。さらに、具体性、客観性の有無で自己PR文を分類し、構成要素との関連を分析した。

調査対象は、専門学校の外国人留学生（以下、留・専門とする）71名、同じ専門学校の日本人学生（以下、日・専門とする）20名、日本人大学生（以下、日・大学とする）50名、就職活動マニュアル本の実例（以下、日・本とする）50編⁶である（表3）。留・専門の出身国はベトナム（20名）、ネパール（17名）、ミャンマー（15名）、インドネシア（6名）、スリランカ（6名）、中国（4名）、韓国（1名）、ブラジル（1名）、バングラデシュ（1名）である。

調査データは大学と専門学校の授業で「300字程

度で就職活動のための自己PR文を書く」という課題を出し、紙媒体か電子ファイルで提出させた。本研究では同一の課題に対し直接提出されたデータを用いること、コンピテンシーの枠組みで外国人留学生と日本人学生を比較することが新しい試みである。

表3 調査対象

| 略称 | 調査対象 | データ数 |
|------|--|------|
| 留・専門 | 外国人の専門学校生2年生（2021年度と2022年度） | 71 |
| 日・専門 | 日本人の専門学校2年生（2021年度と2022年度） | 20 |
| 日・大学 | 日本人の大学1年生（2022年度） | 50 |
| 日・本 | 就職活動マニュアル本（2021年・2022年発行）3冊に掲載された内定大生の実例の文を無作為抽出した | 50 |

調査項目のうち、話題、コンピテンシー、文章の構成要素、具体性、客観性の5項目については、筆者のほかに2名の日本語教師に認定を依頼した。千葉(2019)等で10%以上のデータにおいて認定一致度を確認していることから、本研究でも全体の11%のデータで一一致度を測定した。その結果、いずれの項目も85%以上の高い一致率があることを確認した。

6. 分析結果と考察

6.1 使用された語彙の特徴

6.1.1 各群の頻出語と特徴語

語彙については、KH Coder³を用いて、4群の自己PR文の形態素解析を実施した。設定として、形態素解析器はMeCabを選び、組織名や人名を除外し、「部活動」などそのまま検出したい複合語を強制抽出語として指定した後、前処理の実行を行った。さらに、「頑張る」と「がんばる」などの表記のゆれについて同一のカウントをするようにした。

まず、頻出語について、保坂・島田(2021)等で上位20の頻出語がリストとして挙げられていることから、本研究でも上位20（同位のものがあるため20を超える群がある）を挙げた（表4）。上位20までどの群にも共通して多かった語は「仕事」「思う」「人」「考える」「アルバイト」「自分」の6つだった。

表 4 各群の頻出語 (語の右の数字は出現回数)

| | 留・専門 n = 71 | 日・専門 n = 20 | 日・大学 n = 50 | 日・本 n = 50 |
|----|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 1 | 仕事 113 | 思う 16 | 自分 58 | 自分 55 |
| 2 | 日本 82 | 人 16 | 練習 46 | 思う 37 |
| 3 | 思う 76 | 好き 15 | 考える 43 | 仕事 34 |
| 4 | 人 67 | アルバイト 14 | 思う 41 | 考える 31 |
| 5 | 自分 66 | お客様 12 | 人 37 | 人 26 |
| 6 | 勉強 55 | 強み 12 | 強み 33 | 大学 26 |
| 7 | アルバイト 55 | 考える 10 | アルバイト 38 | 目標 21 |
| 8 | 頑張る 48 | 仕事 10 | 高校 31 | 行動 18 |
| 9 | 日本語 37 | 大切 10 | 大会 30 | 達成 18 |
| 10 | 今 31 | 努力 10 | 部活動 27 | 経験 17 |
| 11 | 学ぶ 30 | 勉強 10 | 仕事 26 | 努力 17 |
| 12 | 持つ 30 | 行動 9 | お客様 26 | 結果 14 |
| 13 | 責任 30 | 今 9 | 活動 22 | ゼミ 13 |
| 14 | 来る 29 | コミュニケーション 8 | 経験 20 | 学ぶ 13 |
| 15 | 働く 26 | 学ぶ 8 | 結果 20 | 多く 13 |
| 16 | 経験 25 | 時間 8 | 行動 19 | 友人 13 |
| 17 | 考える 25 | 笑顔 8 | 相手 19 | アルバイト 12 |
| 18 | 強み 23 | 目標 8 | 取り組む 18 | 学生 12 |
| 19 | 言う 22 | 自分 7 | 生徒 18 | 活動 12 |
| 20 | 学校 21 | 韓国語 7 | 積極 17 | 強い 12 |

20番目の同位に以下のものがある。

- 留・専門: 「留学」「諦める」「会社」「良い」
- 日・専門: 「経験」「言う」「会話」「できる」「相手」「長所」「挑戦」「友達」「話す」
- 日・大学: 「大学」「努力」
- 日・本: 「工夫」「練習」

次に、各群 (外部変数) の特徴語の上位 10 を抽出した (表 5)。KH Coder3 では分析対象となった語のすべての組み合わせについて共起関係の強弱を示す Jaccard 係数を算出しており、特徴語はこれを利用して抽出されている (樋口, 2020)。Jaccard 係数は「0 から 1 までの値をとり、関連が強いほど 1 に近づく」 (樋口, 2020, p.39) 性質があり、0.10 は「関連がある」、0.20 は「強い関連がある」、0.30 は「とても強い関連がある」と解釈できる (樋口, 2012)。宮原 (2021) 等で上位 10 の特徴語がリストに挙げられていることから、本研究でも上位 10 の特徴語を記した。その結果、留・専門では外部変数ととても強い関連のあ

表 5 各群の特徴語 (語の右の数字は Jaccard 係数)

| | 留・専門 n = 71 | 日・専門 n = 20 | 日・大学 n = 50 | 日・本 n = 50 |
|-------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 日本 | 0.50 | 好き 0.22 | 高校 0.36 | 大学 0.28 |
| 頑張る | 0.37 | 韓国語 0.21 | 部活動 0.30 | 努力 0.21 |
| 仕事 | 0.37 | 検定 0.19 | 練習 0.29 | 達成 0.20 |
| 勉強 | 0.36 | 授業 0.17 | 考える 0.27 | 考える 0.19 |
| 人 | 0.35 | 挑戦 0.16 | 自分 0.27 | 友人 0.19 |
| 来る | 0.32 | 色々 0.15 | 強み 0.25 | 多く 0.18 |
| 思う | 0.31 | 嬉しい 0.15 | 大会 0.25 | 目標 0.17 |
| アルバイト | 0.30 | 休日 0.15 | 所属 0.23 | 強い 0.15 |
| 日本語 | 0.29 | 大切 0.15 | 結果 0.23 | 身 0.15 |
| 自分 | 0.28 | 商品 0.14 | 活動 0.21 | 学生 0.14 |

る特徴語が多いことがわかった。以下、頻出語、特徴語、収集データの文 ([1] ~ [14]・すべて原文ママ) から、各群の特徴を分析する。

6.1.2 留・専門の語彙の特徴

留・専門では、「日本」(Jaccard 係数 0.50, 以下同様に語の後の数字は Jaccard 係数)や「日本語」(0.29) が特徴語として挙げられている。「日本」は【1】のように日本へのあこがれを語る文脈で、「日本語」は【2】のように苦労を語る文脈で、多く使われていた。

【1】日本に住んでいるおじがネパールへ帰国した時に日本は頑張れる人にたくさんのチャンスが与えられる国とか日本の色々な話を聞かせてくれました。

(留・専門_32 (ネパール), 以下同様に例文の後のカッコ内にそれを書いた者の整理番号, 留・専門は出身国も記す)

【2】「私の日本語はまだ足りないのかな。」と、本当に情けない気持ちになりました。(留・専門_49 (ベトナム))

また、【3】のように、「勉強」(0.36) と「アルバイト」(0.30) 等との両立を「頑張る」(0.37) ことをアピールする文が多かった。

【3】私のちょうしょうは勉強とかアルバイトにやまずにがんばることです。(留・専門_13 (ネパール))

さらに、【4】のように、「責任」(出現回数 30 回) が多用された。表 5 にはないが「責任」は Jaccard 係数 0.23 の留・専門の特徴語である。香山 (2015) は

タイ人大学生が「責任」を多用していることを指摘したが、本研究でも同様の結果が認められた。

【4】私の長所は責任感が強いです。3年間アルバイトするのは一度も休まなくて、遅刻しなかったです。(留・専門_26 (ベトナム))

6.1.3 日・専門の語彙の特徴

日・専門では、【5】【6】のように、「好き」(0.22)、「嬉しい」(0.15)など、感情をストレートに表す語が上位に抽出されている。

【5】音楽もいろいろなジャンルが好きで、聴くこと、演奏すること、歌うことの全てが好きです。(日・専門_6)

【6】そうしていたら、お客様から気を遣ってくれてありがとうと言っていていただき事があり、とても嬉しかったのを覚えています。(日・専門_7)

また、【7】のように、「韓国語」(0.21)や「検定」(0.19)など語学の勉強に関する語が多かった。これは、調査した専門学校が外国語専門学校であるためだと考えられる。留・専門と日・専門の共通の傾向である。

【7】今は、中国語と韓国語の検定に向けて勉強に集中して取り組んでいます。(日・専門_8)

6.1.4 日・大学の語彙の特徴

日・大学では、【8】のように、「高校」(0.36)、「部活動」(0.30)、「練習」(0.29)、「大会」(0.25)、「所属」(0.23)など、部活動関係の語が多かった。

【8】私は、中学、高校そして大学と部活動でバレーボール部に所属しています。(日・大学_19)

また、【9】のように、「積極」(0.16)は積極性をアピールする文脈で使われていた。

【9】私の強みは積極性です。アルバイトをしているガソリンスタンドで売り上げを上げるため、タイヤや部品交換で給油以外にも売る必要があります。(日・大学_11)

6.1.5 日・本の語彙の特徴

日・本では、【10】のように、「努力」(0.21)、「達成」(0.20)、「目標」(0.17)などのコンピテンシーアピールに直結するような語が上位を占めていた。

【10】目標を定め、計画を立て、合理的に、なるべく短期に実現する努力をします。(日・本_32)

また、【11】では「友人」(0.19)とのやりとりを述べることで自分の客観的評価にうまくつなげている。

【11】自分では、もう少し自己主張の強さがほしいと思いますが、友人は、「チームワークをよくするには、きみのように人のよいところを引き出せるタイプが必要とされているのだ」と言ってくれます。(日・本_17)

香山(2015)は日本人学生のみで使用された語として「友人」「達成」「目標」を挙げたが、本研究でもこれらは日・本の上位の特徴語として抽出された。

6.1.6 対応分析

抽出語と外部変数(4群)の関係を視覚的に把握するために、KH Coder3の機能の1つである「抽出語を用いた対応分析」を行い、外部変数と抽出語(出現回数12回以上)の同時布置をした(図2)。出現回数設定を「12回以上」にしたのは、ボーダーを低く設定すればより多くの抽出語を布置できるが、KH Coder3が散布図全体で100~150語の布置を推奨しており、この制約を満たす中でとりうる最も低い回数が12回であったからである。

原点から見て外部変数のラベルの方向にある語、そして原点から離れている語ほど、その外部変数の特徴的なものである(樋口, 2020, p.43)。留・専門では「日本」や「日本語」、日・専門では「周り」、日・大学では「部活動」、日・本では「友人」や「ゼミ」などがその群に特徴的な語であると考えられる。

また、近くに布置されたグループ同士は似通っている(樋口, 2020, p.175)。成分1の横軸に着目すれば、留・専門と最も近いのは日・専門であるが、日・専門と日・本、日・本と日・大学は隣り合う形で近く、留・専門が日本人3群からやや離れているという見方もできるだろう。また、成分2の縦軸に着目しても留・専門に最も近いのはやはり日・専門である。日・専門と日・大学も近いが、日・本はどの群からも離れている。以上から、留・専門と含まれる語が最も似通っていると考えられるのは日・専門だろう。実際に、例えば日・専で特徴語に挙げられている「好き」は留・専門とのちょうど中間に位置し、表

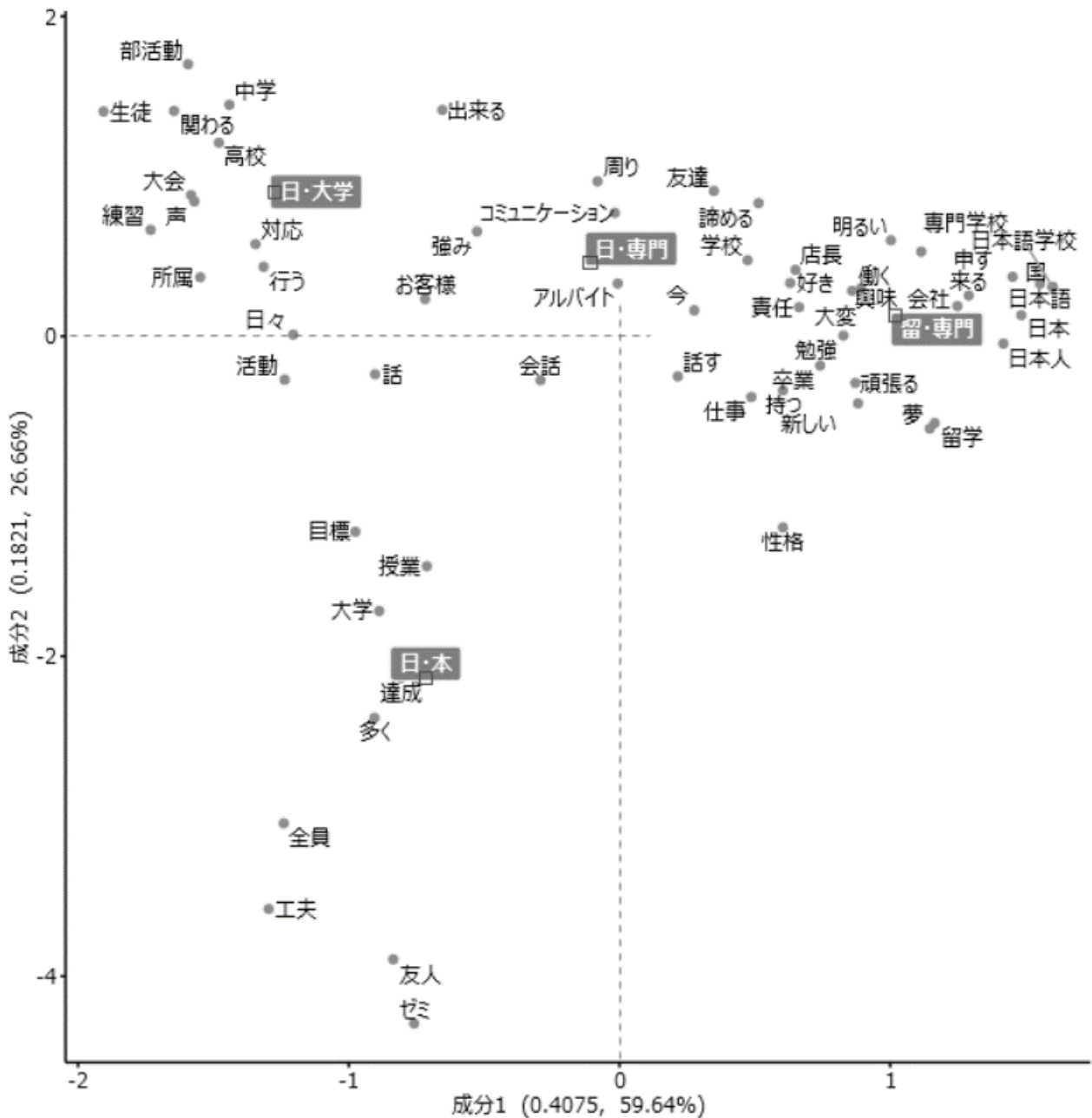


図2 対応分析による抽出語と外部変数（4群）の同時布置

5 の上位 10 にはないが留・専門でも Jaccard 係数 0.17 の特徴語となっている。留・専門と日・専門は同じ学校で、同じ経験をしているから自己 PR に使用する語彙が似通ってくるのではないだろうか。一方、日・本は他の 3 群と比較的距離があることから含まれる語が似ていないと考えられる。これは日・本のみが内定取得者の実例であり、いわば手本を集めたものだからではないだろうか。

6.2 アピール対象の特徴

6.2.1 各群の話題の特徴

自己 PR 文で取り上げられた話題を分類した（表 6）。表内の数字のうち、左はその話題を取り上げた人数、右はその割合である。座右の銘について述べたようなものを「その他」に分類した。

話題における日本人学生と外国人留学生で最も大きな違いは「部活動・サークル活動」である。留・専

門の7.0%しか「部活動・サークル活動」を話題にしていないが、日本人3群では20.0%を超えている。特に、日・大学では44.0%と話題の中で最も高い。日・大学にとって中高時代からの部活動の話題は使用語彙やアピールするコンピテンシーにも影響していると考えられる。一方、留・専門は「アルバイト」(50.7%)の話題が最も多く、半数を超えている。

表6 話題の使用割合(使用人数/n)

| | 留・専門 (n=71) | | 日・専門 (n=20) | | 日・大学 (n=50) | | 日・本 (n=50) | |
|--------------|----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|---------------|-------|
| | 人 | 割合 | 人 | 割合 | 人 | 割合 | 人 | 割合 |
| アルバイト | 36 | 50.7% | 7 | 35.0% | 19 | 38.0% | 10 | 20.0% |
| 学校・勉強・ゼミ | 13 | 18.3% | 2 | 10.0% | 7 | 14.0% | 3 | 6.0% |
| 部・サークル活動 | 5 | 7.0% | 4 | 20.0% | 22 | 44.0% | 13 | 26.0% |
| 趣味・ボランティア活動等 | 9 | 12.7% | 3 | 15.0% | 8 | 16.0% | 14 | 28.0% |
| 語学・その他能力 | 13 | 18.3% | 5 | 25.0% | 0 | 0.0% | 3 | 6.0% |
| エピソードなしの長所 | 23 | 32.4% | 4 | 20.0% | 1 | 2.0% | 2 | 4.0% |
| エピソードなしの短所 | 5 | 7.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 日本関連 | 7 | 9.9% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| その他 | 5 | 7.0% | 1 | 5.0% | 7 | 14.0% | 6 | 12.0% |
| 該当なし | 8 | 11.3% | 1 | 5.0% | 2 | 4.0% | 2 | 4.0% |

留・専門の特徴として、「エピソードなしの長所」(32.4%)の使用割合が他群に比べて高く、説得力に欠ける自己PR文だと受け止められる可能性があると考えられる。日・専門の特徴として、「語学・その他能力」(25.0%)が高いことが挙げられる。これは所属が外国語専門学校であるためだと考えられ、留・専門も18.3%と他の2群と比べ高い。日・本では「趣味・ボランティア活動等」(28.0%)、「部活動・サークル活動」(26.0%)、「アルバイト」(20.0%)の3つが比較的多く使用されている。多様な実例を取り上げるというマニュアル本としての編集上の配慮が働いている可能性が考えられる。

また、1編あたりの話題数平均は、留・専門1.6(標準偏差0.8, 以下同)、日・専門1.3(0.5)、日・大1.2

(0.5)、日・本1.2(0.4)と、留・専門が他群と比べて多くなっている。外国人留学生のためのマニュアル本で「話題を1つに絞るのがよい」(独立行政法人日本学生支援機構, 2023, p.50)とされているが、留・専門は日本人3群と比べると1つの話題を深く掘り下げる書き方ではない傾向にあると考えられる。

6.2.2 各群のコンピテンシーの特徴

次に、自己PR文でアピールされていると認められるコンピテンシーを分類した(表7)。「自己管理能力」(冷静さ, ストレス耐性, 規律性, 勤勉さ等), 「人間関係構築力」(チームワーク, 思いやり, 協働性, 柔軟志向等), 「目標達成力」(行動志向, チャレンジ性, 計画性, 向上心等), 「リーダーシップ力」(理念・方針の共有, 後輩の指導, 率先力, 目標の管理および評価等), 「ビジネス力」(コスト意識, 好奇心, 解決策の立案, プレゼンテーション等)の5つのコンピテンシー群に、「IT能力」「語学力」「体力」「その他」「該当なし」を加え、合わせて10項目の分類基準を設定した。

表7 コンピテンシーの使用割合(使用人数/n)

| | 留・専門 n=71 | | 日・専門 n=20 | | 日・大学 n=50 | | 日・本 n=50 | |
|----------|--------------|-------|--------------|-------|--------------|-------|-------------|-------|
| | 人 | 割合 | 人 | 割合 | 人 | 割合 | 人 | 割合 |
| 自己管理能力 | 14 | 19.7% | 3 | 15.0% | 4 | 8.0% | 3 | 6.0% |
| 人間関係構築力 | 29 | 40.8% | 9 | 45.0% | 23 | 46.0% | 20 | 40.0% |
| 目標達成力 | 32 | 45.1% | 3 | 15.0% | 22 | 44.0% | 26 | 52.0% |
| リーダーシップ力 | 5 | 7.0% | 1 | 5.0% | 13 | 26.0% | 7 | 14.0% |
| ビジネス力 | 19 | 26.8% | 3 | 15.0% | 22 | 44.0% | 16 | 32.0% |
| IT能力 | 3 | 4.2% | 1 | 5.0% | 1 | 2.0% | 1 | 2.0% |
| 語学力 | 18 | 25.4% | 5 | 25.0% | 1 | 2.0% | 4 | 8.0% |
| 体力 | 2 | 2.8% | 3 | 15.0% | 18 | 36.0% | 8 | 16.0% |
| その他 | 3 | 4.2% | 2 | 10.0% | 3 | 6.0% | 2 | 4.0% |
| 該当なし | 8 | 11.3% | 1 | 5.0% | 2 | 4.0% | 2 | 4.0% |

表7では、各群において、それぞれのコンピテンシーに言及した人数とその割合を示した。一人が複

数のコンピテンシーに言及している場合もある。本研究では、書き手の意図とは関係なく、言及があったものをアピールとみなした。例えば、専門学校生は外国語が専門であるため、留・専門も日・専門も語学に言及する学生が多く、この2群で「語学力」の割合が高くなっている。また、運動部に言及したものは「体力」、部活動の部長等に言及したものは「リーダーシップ」のアピールを含むとみなしたため、日本人3群で「体力」や「リーダーシップ」の割合が比較的高くなっている。

表7から読み取れることを3点述べる。1点目は、全群でアピールする割合が最も高いのは「人間関係構築力」である。どの群も40%を超えている。2点目は、留・専門は日・専門と同じ傾向を示す項目があることである。「語学・その他の能力」をアピールしたのが日・大学は2.0%、日・本は8.0%であるのに対し、留・専門は25.4%、日・専門は25.0%と高かった。また、「自己管理能力」は日・大学で8.0%、日・本で6.0%であるのに対し、留・専門は19.7%、日・専門は15.0%と比較的高かった。3点目は、留・専門でコンピテンシーの「該当なし」(11.3%)の割合が高いことである。例えば、【12】は何の根拠も示さずに「就職も頑張ればできると思う」と結んでいる。このように日本へのあこがれや日本での苦労話のみで終始する文が多い。

【12】日本で働きたいのは高校生の時から夢があった。だから、高校生終わってから日本の事を勉強して日本語を学んできて日本へ来ました。(中略)今の状態では就職は難しいと思いますか頑張ればできると思います。(留・専門_40 (中国))

6.3 文章の構成要素の特徴

6.3.1 ジャンル分析

自己PR文を構成する1つ1つの文が全体の中でどのような要素となっているかを、古本(2013, p.81)の基準を参考にして作成した分類基準によって分類した(表8)。まず、全体を「開始」「展開」「結び」の3つに分けるムーブについて、構成するステップが1つでも存在すればそのムーブがあるとカウントした。その結果、日本人3群ではそれぞれ、「開始」や「結び」を70%以上が備えていたが、留・専門で

は「開始」の使用割合が59.2%、「結び」の使用割合が36.6%と低かった。

表8 文章の構成要素の使用割合(使用人数/n)(古本(2013, p.81)の基準の文言を一部変えた)

| ステップ | 定義 | 表現例 | 留・専門 | 日・専門 | 日・大学 | 日・本 |
|-----------|-----------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|
| | | | n = 71 | n = 20 | n = 50 | n = 50 |
| 開始のムーブ | | | 42 | 14 | 37 | 50 |
| | | | 59.2% | 70.0% | 74.0% | 100.0% |
| ①見出し | 独立した見出しとして表記 | フランス語は誰にも負けない | 0 | 0 | 0 | 50 |
| | | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| ②準見出し | 本文前半で要点を述べる | 私の強みは～です | 42 | 14 | 37 | 14 |
| | | | 59.2% | 70.0% | 74.0% | 28.0% |
| 展開のムーブ | | | 71 | 20 | 50 | 50 |
| | | | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| ③状況 | 現状を述べる | ～でアルバイトをしています | 47 | 15 | 31 | 21 |
| | | | 66.2% | 75.0% | 62.0% | 42.0% |
| ④目標・信条 | 心がけていることや目標を述べる | 頑張りたいです | 32 | 3 | 7 | 8 |
| | | | 45.1% | 15.0% | 14.0% | 16.0% |
| ⑤困難 | 苦労や失敗を述べる | ～できませんでした・大変でした | 27 | 5 | 19 | 18 |
| | | | 38.0% | 25.0% | 38.0% | 36.0% |
| ⑥理由・考え方 | 行動の理由・考え方を述べる | ～だからです・～だと思います | 38 | 8 | 24 | 19 |
| | | | 53.5% | 40.0% | 48.0% | 38.0% |
| ⑦行動・エピソード | 過去の行動・⑧のエピソード | 一度も休みませんでした | 46 | 17 | 46 | 50 |
| | | | 64.8% | 85.0% | 92.0% | 100.0% |
| ⑧結果・評価 | 評価・⑦の結果 | ～とほめられました | 49 | 17 | 45 | 40 |
| | | | 69.0% | 85.0% | 90.0% | 80.0% |
| 結びのムーブ | | | 26 | 14 | 36 | 37 |
| | | | 36.6% | 70.0% | 72.0% | 74.0% |
| ⑨継続中の努力 | 現在実行中の行動に言及する | 今も～を続けています | 9 | 2 | 4 | 5 |
| | | | 14.1% | 10.0% | 8.0% | 10.0% |
| ⑩経験意義 | 抽象度を上げた言葉でまとめる | ～を学びました・～を得ました | 12 | 3 | 13 | 11 |
| | | | 16.9% | 15.0% | 26.0% | 22.0% |
| ⑪仕事言及 | 将来活用したいことを述べる | 強みを活かしてがんばります | 12 | 10 | 21 | 26 |
| | | | 16.9% | 50.0% | 42.0% | 52.0% |
| ⑫願望 | 採用を望む言葉を述べる | 御社で働きたいです | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | | | 2.8% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |

次に、ステップについて述べる。ステップ①と②は「開始」の、ステップ③～⑧は「展開」の、ステップ⑨～⑫は「結び」の下位分類である。このうち、「⑦行動・エピソード」の日本人3群の使用割合は80～100%、「⑧結果・評価」は80～90%と非常に高い。また、前述したように「開始」（「①見出し」か「②準見出し」）も70%以上使用されている。これらは、古本（2013, p.81）で「全体の76.5%の文章に、[質問回答]、[行動]、[結果]の3つが使用されていた」という結果と同水準である。したがって、本研究でも「①見出しあるいは②準見出しー⑦行動・エピソードー⑧結果・評価」という「自己PR文としての文章の型」があると考えられる。

一方、留・専門の「②準見出し」の使用割合は59.2%（「①見出し」は0.0%であった）、「⑦行動・エピソード」は同64.8%、「⑧結果・評価」の使用割合は69.0%と、日本人3群の使用割合に比べ低かった。それに対して、留・専門では「④目標・信条」の使用割合が、日本人の約3倍の45.1%と高くなっている。

例えば、【13】のような文である。文末の「～読むよう心がけました」だけでは実際に行動したかどうか、読み手にはわからない。

【13】趣味の読書は母国語だけでなく、日本語の本も毎月1冊以上読むように心がけています。（留・専門_3（ネパール））

6.3.2 具体性・客観性の有無

就職活動マニュアル本などを参考にして具体性や客観性が認められる基準（表9）を作成し、4群の自己PR文について、具体性や客観性があるものとなしものに分類した。その結果が表10である。

留・専門は具体性があると認定された割合が56.3%、客観性があると判断された割合が38.0%と、日本人3群よりも具体性で27ポイント以上、客観性で14ポイント以上、下回っていた。これらが低い要因として、留・専門は「⑦行動・エピソード」（64.8%）、「⑧結果・評価」（69.0%）の使用割合が低いことが考えられる。留・専門は【14】のように、複数の長所を羅列するのみで具体的な体験談、根拠となる実績データが何もない文が多い。こうした文章の構成要素の違いが具体性、客観性に影響を及ぼしていると

考えられる。

【14】私は、負けず嫌いで何でも最後まで頑張る人間です。好奇心が旺盛で新しいことに挑戦することも大好きです。また、積極的に自分を向上させた物事に対しては責任感を持ち強い団体意識もあります。（留・専門_8（中国））

表9 具体性・客観性の認定基準

| 項目 | 基準 |
|-----|---|
| 具体性 | ・「その項目を裏付けるようなエピソードや、忘れられない事件、思い出など過去の出来事」が盛り込まれている。 ・状況や行動の回数、時間、人数、金額、期間等の説明において数字が使われている。 |
| 客観性 | ・成績、賞、成果等の実績データが数字によって示されている。 ・第三者による評価が示されている。 |

表10 具体性・客観性を備えた自己PR文の割合

| | | 具体性があると認定された | | 客観性があると認定された | |
|------|----------|--------------|-------|--------------|-------|
| | | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 留・専門 | $n = 71$ | 40 | 56.3% | 27 | 38.0% |
| 日・専門 | $n = 20$ | 19 | 95.0% | 11 | 55.0% |
| 日・大学 | $n = 50$ | 42 | 84.0% | 31 | 62.0% |
| 日・本 | $n = 50$ | 45 | 90.0% | 26 | 52.0% |

7. おわりに

日本人学生と外国人留学生の自己PR文の内容面での最も大きな違いは部活動である。日本人学生は中学高校時代からの部活動の話題で自分を語ろうとする者が多く、使用語彙やアピールするコンピテンシーにもその影響が表れていると考えられる。これに対し、外国人留学生はアルバイトの話題を取り上げる割合が他群に比べ高くなっている。

しかし、外国人留学生と日本人学生では必ずしも対立の関係を示すばかりでない。語彙やコンピテンシーにおいて、留・専門は日・専門と同じ傾向を示す部分があることが明らかになった。同じ学校で同じ経験をしながら、アピールする対象や使用語彙が似てくる可能性が示されたと考えられる。

形式面では、古本（2013）の就職活動マニュアル

本の実例を用いた調査から得た知見が、本研究の実際の日本人大学生や専門学校生にもあてはまり、日本人学生が書く自己 PR 文には「見出しか準見出し・行動・エピソード・結果・評価」という文章の型があることが明らかになった。これに対し、外国人留学生のこれらの構成要素の使用率は日本人 3 群と比べ低かった。外国人留学生の自己 PR 文で具体性があると認定された割合 (56.3%) が日本人 3 群よりも 27 ポイント以上、客観性があると判断された割合 (38.0%) が 14 ポイント以上、下回っていたのは、これらのことが原因であると考えられる。

日本では高校入試時に就職活動用自己 PR 文とよく似た書類⁸の提出が課されている。このため、日本人学生の多くが中学校等で自己 PR 文の書き方を一定の型として教わっていることが推察される。したがって、教師は外国人留学生に対し、具体的・客観的な文章にするための型を教えるとともに、日本人学生の多くがその型で書くように中学時代から指導され、その型は日本人学生に浸透しているという背景を説明するとよいだろう。また、外国人留学生の書く自己 PR 文の特徴として、1 割を超える留学生が日本の良さや日本での苦労等を語るのに終始するなどして、肝心のコンピテンシーのアピールをしていないことが明らかになった。就職活動用である以上、自己 PR 文に何らかのコンピテンシーアピールを含めることが必要であり、教師にはその指導が求められるだろう。

一方で、外国人留学生が日本の良さや日本での苦労を語るのは少なくとも日本での就職を前に「アイデンティティの確立」(原田, 2010, p.54)をしようとし始めた証だと捉えることもできるのではないだろうか。外国人留学生の自己 PR 文の頻出語である「頑張る」「責任」「新しい」などの語から彼らの志に気づくことができる。教師には、その志をコンピテンシーアピールにつなげていく指導が求められていると考える。

本研究の限界として、調査対象に大学に在籍する外国人留学生を含めることができなかったこと、各群を同学年に揃えられなかったことが挙げられる。今後の課題としたい。

注

1. 分析に使用した就職活動マニュアル本は表の A～D の順に、以下のとおりである。独立行政法人日本学生支援機構 (2023)『外国人留学生のための就活ガイド 2024』
https://www.jasso.go.jp/ryugaku/after_study_j/job/_icsFiles/afieldfile/2022/11/21/guide_2024_mihiraki_all.pdf (2023 年 5 月 1 日閲覧), 坂本直文 (2021)『内定者はこう書いた! エントリーシート履歴書・志望動機自己 PR【完全版】』高橋書店, 成美堂出版編集部 (2021)『'23 年度版最新最強のエントリーシート・自己 PR・志望動機』成美堂出版, キャリアデザインプロジェクト (2022)『2024 年度版内定勝者みんなの合格事例&最強セオリーエントリーシート』実務教育出版
2. スペンサー・スペンサー (2001, p.24) の本文には「21 のコンピテンシー」と記載があるが、実際には 20 項目しか確認できない。この箇所を引用している他の文献に「20 項目」と記載しているものが複数あることから、本研究ではスペンサー・スペンサー (2001) で扱われているコンピテンシー数は 20 であるとした。
3. KH Coder3 は樋口耕一が開発した計量分析用ソフトウェアである。
<https://kncoder.net/dl3.html> (2024 年 8 月 16 日閲覧)
4. コンピテンシーの分類基準表作成にあたり、最も参考にしたのは、SB クリエイティブ株式会社が運営するサイト『ビジネス+IT』に 2016 年 4 月 7 日に掲載された「コンピテンシーとは何か? 人事教育・評価に活用する方法, 評価項目と導入事例を解説」の中で紹介されている、人事政策研究所 望月禎彦作成のコンピテンシーモデルである。
<https://www.sbbbit.jp/article/cont1/31889> (2023 年 12 月 9 日閲覧)
5. 例えば、ステップの項目名を、②「質問回答」(古本 2013, 以下同)→「準見出し」(本研究, 以下同), ③「初期」→「状況」, ④「目標」→「目標・信条」, ⑥「理由」→「理由・考え方」, ⑦「行動」→「行動・エピソード」, ⑧「結果」→「結果・評価」, ⑨「現状」→「現在進行形の努力」と文言を変えた。また、定義も項目名に従って変えた。

6. 就職活動マニュアル本, 坂本 (2021) から 24 編, 成美堂出版編集部 (2021) から 14 編, キャリアデザインプロジェクト (2022) から 12 編を収集した。
7. 古本 (2013) は「大学で力を入れたことは何か」という質問に回答する形で書かれた自己 PR 文の実例を調査に使用した。
8. 例えば, 東京都教育委員会の「自己 PR カード (様式 12) (Excel 形式)」『「令和 5 年度東京都立高等学校入学者選抜実施要綱・同細目」において志願者が作成する様式について』
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/high_school/archives/exam/applicantfile2023.html (2024 年 8 月 16 日閲覧)

引用文献

- 梅田千砂子・渡辺若菜・伊藤俊也 (2017) 「留学生の「就業力」に関する研究—コンピテンシー・レベルと「社会人基礎力」の関係—」『APU 言語研究論叢』3, pp.94-108
- 金晶晶 (2021) 「日本での就職活動において中国人留学生が抱える問題点—ビジネス日本語の教育内容への提言を目指して—」(神戸大学大学院博士論文)
<https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/kernel/D1007645/D1007645.pdf> (2023 年 12 月 19 日閲覧)
- 香山恆毅 (2015) 「日本語就職用自己 PR 文でタイ・日本の学生は何をどんな語で PR しているのか」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』12, pp.57-66
- 後藤隆昭 (2010) 「英文ライティングにおけるジャンル分析方法論の比較研究」『熊本大学社会文化研究』8, pp.179-187
- 首相官邸 (2016) 「日本再興戦略 2016—第 4 次産業革命に向けて—」
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/2016_zentaihombun.pdf (2023 年 12 月 19 日閲覧)
- スペンサーM ライル・スペンサーM シグネ (2001) 『コンピテンシー・マネジメントの展開—導入・構築・活用—』梅津 祐良・横山哲夫・成田攻(訳) 生産性出版 (Lyle M. Spencer Jr. & Signe M. Spencer.(1993) *Competence at Work: Models for Superior Performance*. Wiley.)
- 千葉涼 (2019) 「内容分析研究の現状と今後の展望」『マス・コミュニケーション研究』95, pp.27-40
- 寅丸真澄・江森悦子・佐藤正則・重信三和子・松本明香・家根橋伸子 (2018) 「留学生のキャリア意識とキャリア支援の「ずれ」を考える—日本語学校・短大・大学 (首都圏・地方) の留学生の語りから—」『言語文化教育研究』16, pp.240-248
- 原田麻里子 (2010) 「留学生の就職支援—留学生相談現場からみた現状と課題—」『移民政策研究』2, pp.40-58
- 樋口耕一 (2012) 「[No.1241] Re : Jaccard 係数の読み方 (大きさ)」KH Coder 掲示板
https://kxcoder.info/cgi-bin/bbs_khn/khcf.cgi?&no=1241&reno=1240&oya=1235&mode=msgview (2023 年 12 月 19 日閲覧)
- 樋口耕一 (2020) 『社会調査のための計量テキスト分析第 2 版—内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版
- 古本裕子 (2013) 「就職活動における自己 PR 文の談話分析」『日本語教育方法研究会誌』20(1), pp.80-81
- 保坂敏子・島田めぐみ (2021) 「日本アニメに対する英語字幕翻訳の年代による変化—日本語のセリフと複数の英語字幕翻訳のテキストマイニング—」『社会言語科学会 第 44 回大会発表論文集』, pp.82-85
- 牧野智和 (2010) 「「就職用自己分析マニュアル」が求める自己とその機能—「自己のテクノロジー」という観点から—」『社会学評論』61(2), pp.150-167
- 宮原道子 (2021) 「テキストマイニングを用いたシラバス分析の探索的研究」『大阪観光大学研究論集 (旧大阪観光大学紀要)』21, pp.95-103

(Received: August 20, 2024)

(Issued in internet Edition: September 2, 2024)